#### グレートブリテンにおける作業関連のストレス、不安又はうつの統計、2022年について

この資料の作成年月 2023年2月 この資料の作成者 中央労働災害防止協会技術支援部国際課

(資料作成者注:原典における"Depression"は、「鬱」又は「鬱病」と訳すことも考えられたのですが、原典の資料の性格から、以下本稿では「うつ」と訳してあります。)

英国安全衛生庁(Health and Safety Executive:略称: HSE)は、2022年11月23日に、グレートブリテン(イングランド、スコットランド及びウェールズの地域の総称であり、北アイルランドは含まない。以下同じ。)における作業関連のストレス、うつ又は不安に関する2001/02年度から2021/22年度までの統計(2022年3月末までの統計として更新したもの)を公表しています。
それによりますと、

- 2021/22 年の労働力調査(LFS)において、作業に関連するストレス、うつ又は不安に苦しむ労働者(新規又は長期にわたるもの)が 91 万 4 千人
- 2021/22 年の労働力調査(LFS)において、作業に関連するストレス、うつ又は不安による労働損失日数は 1700 万日である。 とされています。

日本においては同種の統計資料は、見当たりませんが、作業関連のストレス、うつ又は不安は、重要な問題であり、HSE が公表した次の資料は、 我が国にとっても参考になるものであると考えられますので、本稿では、その全文について、必要に応じて訳者の注、解説等を付して、「英語原 文―日本語対訳」として紹介するものです。

- |● 作業関連のストレス、うつ又は不安の規模及び傾向
- 産業別の作業関連のストレス、うつ又は不安
- 職業別の作業関連のストレス、うつ又は不安
- 作業関連のストレス、うつ又は不安の年齢及び性別による分類
- 作業関連のストレス、うつ又は不安及び職場規模

#### • 作業関連のストレス、不安又はうつの原因

なお、日本における精神障害に関する労災補償状況については、令和4年(2022年)6月24日に、「令和3年度「過労死等の労災補償状況」を 公表します」として厚生労働省労働基準局 補償課 職業病認定対策室が公表した資料が現時点での最新の統計ですので、次に「資料作成者の注」 として紹介しています。

(資料作成者注:日本における精神障害に関する労災補償状況については、令和4年(2022年)6月24日に、「令和3年度「過労死等の労災補償状況」を公表します」として厚生労働省労働基準局補償課職業病認定対策室が公表した資料が現時点での最新の統計です(掲載されているウェブサイト:https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\_26394.html )が、この発表のうち、精神障害の労災補償状況を抜粋して次に紹介します。これによりますと、令和3年度(2021年度)では労災として支給の決定がされた件数は629件(うち、女性は277人)となっています。)

表2-1 精神障害の労災補償状況

区分	年度	平成29	年度	平成30	年度	令和元	年度	令和2	年度	令和3	8年度
	請求件数	1732 (	689)	1820 (	788 )	2060 (	952)	2051 (	999 )	2346 (	1185)
精神障害	決定件数	1545 (	605)	1461 (	582 )	1586 (	688 )	1906 (	887)	1953 (	985 )
7817741	うち支給決定 件数 注3 [認定率註5	506 ( [32.8%] (	160 ) 26.4% )	465 ( [31.8%] (	163 ) 28.0% )	509 ( [32.1%] (	179 ) 26.0% )	608 ( [31.9%] (	256 ) 28.9% )	629 ( [32.2%] (	277 )
	請求件数	221 (	14)	200 (	22 )	202 (	16)	155 (	20 )	171 (	15)
うち自殺 <sub>注6</sub>	決定件数	208 (	14)	199 (	21 )	185 (	17)	179 (	17)	167 (	20 )
	うち支給決定 件数	98 (	4 )	76 (	4 )	88 (	4 )	81 (	4 )	79 (	4)
	[認定率]	[47.1%] (	28.6%)	[38.2%] (	19.0%)	[47.6%] (	23.5%)	[45.3%] (	23.5%)	[47.3%]	20.0%)

審査請求事案の取消決定等による支給決定状況 注7

区分	年 度	平成29年	度	平成30年	度	令和元年	度	令和2年	度	令和3年	度
精神障害	支給決定件数 注8	7 (	0)	21 (	6)	8 (	1)	25 (	7 )	22 (	6)
和TPIP 古	うち自殺	4 (	0)	5 (	1)	2 (	0)	12 (	0)	5 (	0)

- 注 1 本表は、労働基準法施行規則別表第1の2第9号に係る精神障害について集計したものである。
  - 2 決定件数は、当該年度内に業務上又は業務外の決定を行った件数で、当該年度以前に請求があったものを含む。
  - 3 支給決定件数は、決定件数のうち「業務上」と認定した件数である。
  - 4 複数業務要因災害として決定した事案は、上表における決定件数の外数である。
  - 5 認定率は、支給決定件数を決定件数で除した数である。
  - 6 自殺は、未遂を含む件数である。
  - 7 審査請求事案の取消決定等とは、審査請求、再審査請求、訴訟により処分取消となったこと等に伴い新たに支給決定した事案である。
  - 8 審査請求事案の取消決定等による支給決定件数は、上表における支給決定件数の外数である。
  - 9 ()内は女性の件数で、内数である。なお、認定率の()内は、女性の支給決定件数を決定件数で除した数である。

[原典資料の所在]: https://www.hse.gov.uk/statistics/causdis/stress.pdf

[原典資料の名称]: Work-related stress, anxiety or depression statistics in Great Britain, 2022 (グレートブリテンにおける作業関連のストレス、不安又はうつの統計

[原典の公表日]: 2022年11月23日

[著作権について]: 次により、出典を明記すれば、転載等は自由に認容されています。

#### Copyright

Copyright relating to online resources: The information on this website is owned by the Crown and subject to Crown copyright protection unless otherwise indicated. You may re-use the Crown material featured on this website free of charge in any format or medium, under the terms of the Open



## Work-related stress, anxiety or depression statistics in Great Britain, 2022

Data up to March 2022 Annual statistics Published 23 November 2022

#### Work-related stress, anxiety or depression statistics in Great Britain, 2022

(グレートブリテンにおける作業関連のストレス、不安又は鬱の統計、2022年)

Table of Contents

Summary

Introduction

Scale and trend in work-related stress, depression or anxiety

Work-related stress, depression or anxiety by industry

Work-related stress, depression or anxiety by occupation

Work-related stress, depression or anxiety by age and gender

Work-related stress, depression or anxiety and workplace size

Causes of work-related stress, anxiety or depression

Annex 1: Sources and definitions

Annex 2: Links to detailed tables

**National Statistics** 



**目次**(左欄の原典にあるページ番号は省略しています。)

要約

はじめに

作業関連のストレス、うつ又は不安の規模及び傾向

産業別の作業関連のストレス、うつ又は不安

職業別の作業関連のストレス、うつ又は不安

作業関連のストレス、うつ又は不安の年齢及び性別による分類

作業関連のストレス、うつ又は不安及び職場規模

作業関連のストレス、不安又はうつの原因

附属資料1:出典及び定義

附属資料2:詳細表へのリンク

国家統計

国家統計のロゴマーク

Summary

914,000 workers suffering from work-related stress, depression or anxiety (new or long-standing) in 2021/22 *Labour Force Survey (LFS)* 

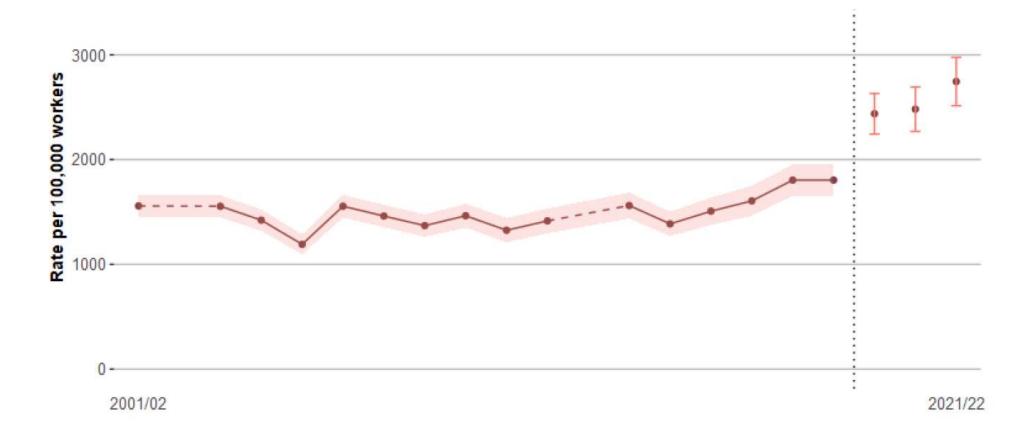
要約

2021/22 年の労働力調査(LFS)において、作業に関連するストレス、 うつ又は不安に苦しむ労働者(新規又は長期にわたるもの)が 91 万 4 千人

17.0 million working days lost due to work-related stress, depression or anxiety in 2021/22 *Labour Force Survey (LFS)* 

2021/22 年の労働力調査 (LFS) において、作業に関連するストレス、 うつ又は不安による労働損失日数は 1700 万日である。

Rate of stress, depression or anxiety per 100,000 workers: new and long-standing (新規及び長期にわたるストレス、うつ又は不安の労働者 10 万人当たりの発生率)



In the recent years prior to the coronavirus pandemic, the rate of self-reported work-related stress, depression or anxiety had shown signs of increasing. The current rate is higher than the 2018/19 pre-coronavirus levels. No ill health data was collected in 2002/03 and 2012/13, represented by the dashed line Latest data includes the effects of the coronavirus pandemic, shown as a break in the time series. Shaded area and error bars represent a 95% confidence interval

Source: LFS annual estimate, from 2001/02 to 2021/22

コロナウイルスの大流行 (パンデミック。以下単に「コロナウイルスの大流行」といいます。)前の近年、自己申告による作業関連のストレス、うつ又は不安の割合は増加の兆しを見せていました。現在の割合は、コロナウイルス以前の 2018/19 年のレベルよりも高くなっています。2002/03 及び 2012/13 は体調不良のデータが収集されておらず、破線で示されている最新のデータには、時系列の切れ目として示されているコロナウイルスの大流行の影響が含まれています。網掛け部分及び誤差範囲は 95%信頼区間を表しています。

出典: LFS 年間推計値、2001/02 から 2021/22 まで

Work-related stress, depression or anxiety is defined as a harmful reaction people have to undue pressures and demands placed on them at work. The latest estimates from the Labour Force Survey (LFS) show:

- The total number of cases of work-related stress, depression or anxiety in 2021/22 was 914,000, a prevalence rate of 2,750 per 100,000 workers.
- In the recent years prior to the coronavirus pandemic, the rate of self-reported work-related stress, depression or anxiety had shown signs of increasing. The current rate is higher than the 2018/19 pre-coronavirus

作業関連のストレス、うつ又は不安は、職場における過度なプレッシャー及び 要求に対する有害な反応と定義されます。労働力調査 (LFS) の最新の推計で は、以下のようになっています。

- 2021/22 年の作業関連のストレス、うつ又は不安の総件数は 914,000 件で、労働者 10 万人当たりの有病率は 2,750 件でした。
- コロナウイルスの大流行前の近年、自己申告による作業関連のストレス、 うつ又は不安の割合は増加の兆しを見せていました。現在の割合は、コロ ナウイルス以前の 2018/19 年の水準よりも高くなっています。

levels. • The number of new cases was 372,000, an incidence rate of 1,120 per 100,000 workers.

- The total number of working days lost due to work-related stress, depression or anxiety in 2021/22 was 17 million days. This equated to an average of 18.6 days lost per case. Working days lost per worker due to self-reported work-related stress, depression or anxiety shows no clear trend.
- In 2021/22 stress, depression or anxiety accounted for 51% of all work-related ill health cases and 55% of all working days lost due to work-related ill health.
- By top-level industry averaged 2019/20-2021/22, stress, depression or anxiety was most prevalent in:
- Public administration and defence; compulsory social security Human health and social work activities
- Education
- In terms of occupation averaged 2017/18-2019/20, higher rates of stress, depression or anxiety were found in:
- Professional occupations
- -Associate professional and technical occupations

The main work factors cited by respondents as causing work-related stress, depression or anxiety were workload pressures, including tight deadlines and too much responsibility and a lack of managerial support (2009/10-2011/12).

- 新規患者数は 37 万 2,000 人で、労働者 10 万人当たりの発症率は 1,120 人でした。
- 2021/22年の作業関連のストレス、うつ又は不安による労働損失日数は、 1700万日でした。これは、1件当たりの平均損失日数 18.6日に相当しま す。自己申告による作業関連のストレス、うつ又は不安による労働者一人 当たりの労働損失日数は、明確な傾向を示していません。
- 2021/22 年には、ストレス、うつ又は不安は、すべての作業関連の病気ケースの51%、作業関連の病気による全労働損失日数の55%を占めました。
- トップレベルの産業別平均値 2019/20-2021/22 では、ストレス、うつ又は 不安が最も多く見られたのは次の業種でした。
  - ― 行政及び防衛、社会保障 ― 保健衛生及び福祉活動
  - 一 教育分野
- 職業別では、2017/18-2019/20 平均で、ストレス、うつ又は不安の割合が 高かったのは、以下のとおりでした。
- 一 専門聙
- 一準専門職及び準技術職

作業関連のストレス、うつ又は不安の原因として回答者が挙げた主な作業上の要因は、厳しい納期及び多すぎる責任を含む仕事量のプレッシャー並びに管理職のサポート不足でした(2009/10~2011/12)。

- Of the 914,000 workers suffering from work-related stress, depression or anxiety in 2021/22 an estimated 452,000 believed it was caused or made worse by the effects of the coronavirus pandemic.
- These estimates of the number of workers who suffered work-related stress, depression or anxiety as a result of the coronavirus pandemic should not be subtracted from the overall estimate of work-related stress, depression or anxiety. It cannot be assumed that those individuals would not have otherwise suffered from work-related stress, depression or anxiety in the absence of coronavirus.
- 2021/22 年に作業関連のストレス、うつ又は不安に苦しむ 914,000 人の労働者のうち、推定 452,000 人がコロナウイルス大流行の影響によって引き起こされたか、又は悪化したと考えられています。
- コロナウイルス大流行の結果として、作業関連のストレス、うつ又は不安に苦しむ労働者の数のこれらの推定値は、作業関連のストレス、うつ又は不安の全体の推定値から差し引かれるべきではありません。コロナウイルスがなければ、これらの人々が作業に関連したストレス、うつ又は不安に悩まされることはなかったと仮定することはできません。

#### Introduction

Work-related stress is defined as a harmful reaction that people have to undue pressures and demands placed on them at work. By its very nature, stress is difficult to measure. HSE's preferred data source for calculating rates and estimates for work-related stress, depression or anxiety are self-reports from the Labour Force Survey (LFS).

Previously, HSE also collected data on work-related stress through The Health and Occupation Research network for general practitioners (THOR-GP).

These data, although historic, provide a general practitioners perspective and still useful data on work-related causes of stress. The two data sources may reflect different perceptions of work-related attribution to individual cases.

#### はじめに

作業関連のストレスとは、職場での過度なプレッシャー及び要求に対して、人が抱く有害な反応と定義されています。ストレスは、その性質上、測定が困難です。HSE(英国安全衛生庁。以下単に「HSE」といいます。)は、作業関連のストレス、うつ又は不安の発生率及び推定値を算出するためのデータソースとして、労働力調査(LFS)の自己申告を推奨しています。

以前は、HSE は、一般開業医のための健康及び職業に関する調査ネットワーク (THOR-GP、以下同じ。)を通じて、作業関連のストレスに関するデータも収集していました。

これらのデータは、歴史的なものではありますが、一般開業医の視点に立った ものであり、作業に関連したストレスの原因について現在でも有用なデータで す。

この2つのデータソースは、個々のケースにおける作業起因性の異なる認識を 反映している可能性があります。 Important Note: The coronavirus (COVID-19) pandemic and the government's response has impacted recent trends in health and safety statistics published by HSE and this should be considered when comparing across time periods. More details can be found in our reports on the impact of the coronavirus pandemic on health and safety statistics.

重要なお知らせ:コロナウイルス (COVID-19) の大流行及び政府の対応は、 HSE が発表した安全衛生統計の最近の傾向に影響を与えており、期間を超えて 比較する場合にはこのことを考慮する必要があります。

詳細は、コロナウイルスの大流行が安全衛生統計に与える影響に関する HSE の報告書をご覧ください。

#### Scale and trend in work-related stress, depression or anxiety

In 2021/22 there were an estimated 914,000 workers affected by work-related stress, depression or anxiety. This represents 2,750 per 100,000 workers and results in an estimated 17 million working days lost. In 2021/22 work-related stress, depression or anxiety accounted for 51% of all work-related ill health and 55% of all days lost due to work-related ill health.

In the recent years prior to the coronavirus pandemic, the rate of self-reported work-related stress, depression or anxiety had shown signs of increasing. The current rate is higher than the 2018/19 pre-coronavirus levels.

Working days lost per worker due to self-reported work-related stress, depression or anxiety shows no clear trend. Days lost per worker is a combination of the overall case rate and the days lost per case.

#### 作業関連のストレス、うつ又は不安の規模及び傾向

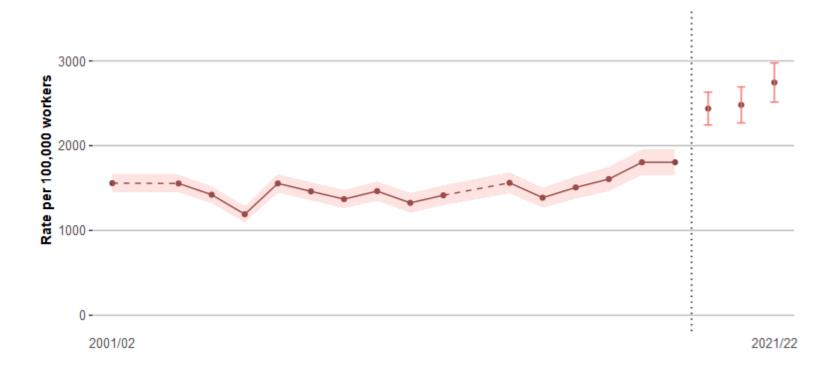
2021/22 年には、作業関連のストレス、うつ又は不安の影響を受けている労働者は、推定 914,000 人です。これは、労働者 10 万人当たり 2,750 人であり、推定 1,700 万労働日の損失となります。2021/22 年には、作業関連のストレス、うつ又は不安は、すべての作業関連の病気の 51%、作業関連の病気による損失日数の 55%を占めました。

コロナウイルス大流行に先立つ近年、自己申告による作業関連のストレス、うつ又は不安の割合は増加の兆しを見せていました。現在の発生率は、コロナウイルス以前の2018/19年の水準よりも高くなっています。

自己申告の作業関連のストレス、うつ又は不安による労働者一人当たりの労働 損失日数は、明確な傾向を示していません。労働者一人当たりの損失日数は、 全体の症例率及び症例当たりの損失日数の組み合わせです。

Figure 1: Estimated prevalence rates of self-reported stress, depression or anxiety caused or made worse by work in Great Britain, for people working in the last 12 months

図1:グレートブリテンにおける過去12ヶ月間に働いていた人の、 作業が原因で発生し、又は悪化したストレス、うつ又は不安の自己申 告による推定有病率



(資料作成者注:上記のグラフ中にある「英語原文―日本語仮訳」は、次のとおりです。)

Rate per 100,000 workers

労働者 10 万人当たりの発生率

In the recent years prior to the coronavirus pandemic, the rate of self-reported work-related stress, depression or anxiety had shown signs of increasing. The current rate is higher than the 2018/19 pre-coronavirus levels.

No ill health data was collected in 2002/03 and 2012/13, represented by the dashed line

Latest data includes the effects of the coronavirus pandemic, shown as a break in the time series.

Shaded area and error bars represent a 95% confidence interval

Source: LFS annual estimate, from 2001/02 to 2021/22

コロナウイルスの大流行前の近年、自己申告による作業関連のストレス、うつ 又は不安の割合は増加の兆しを見せていました。現在の発生率は、コロナウイ ルス以前の 2018/19 年のレベルよりも高くなっています。

破線で表される 2002/03 年及び 2012/13 年には、体調不良のデータは収集されていなません。

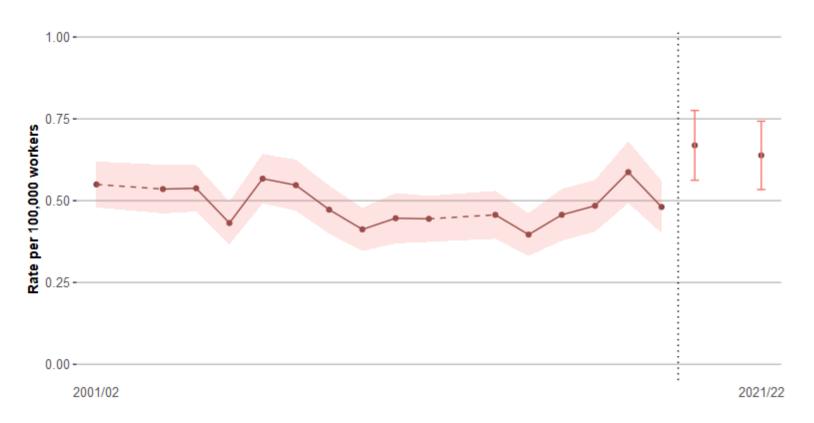
最新のデータにはコロナウイルスの大流行の影響が含まれており、時系列の切れ目として表示されています。

網掛け部分及び誤差範囲は95%信頼区間を表す。

出典 : LFS 年間推計、2001/02 年から 2021/22 年まで

Figure 2: Estimated working days lost per worker due to selfreported work-related stress, depression or anxiety in Great Britain, for people working in the last 12 months

図2:グレートブリテンにおける、自己申告による作業関連のストレス、うつ又は不安による労働者一人当たりの推定損失労働日数、過去12ヶ月に働いていた人について



Rate per 100,000 workers	労働者 10 万人当たりの発生率				
Working days lost per worker due to self-reported work-related stress,	自己申告による作業関連のストレス、うつ又は不安による労働者一人当たりの				
depression or anxiety shows no clear trend.	労働損失日数は、明確な傾向を示していません。				

No ill health data was collected in 2002/03 and 2012/13, represented by the dashed line

2002/03 年及び 2012/13 年は、健康被害に関するデータが収集されていません (破線で示す。)。

Latest data includes the effects of the coronavirus pandemic, shown as a break in the time series.

最新のデータにはコロナウイルスの大流行の影響が含まれており、時系列の切れ目として示されています。

Shaded area and error bars represent a 95% confidence interval Source: LFS annual estimate, from 2001/02 to 2021/22

網掛け部分及び誤差範囲は95%信頼区間を表します。

出典:LFS (労働力調査) 年間推計値、2001/02 年版より。LFS 年間推計、2001/02 から 2021/22 まで

#### Work-related stress, depression or anxiety by industry

# The average prevalence of work-related stress, depression or anxiety across all industries was 2,020 cases per 100,000 workers averaged over the period 2019/20-2021/22. The broad industry categories of public administration and defence; compulsory social security (3,390 cases per 100,000 workers), Human health and social work activities (3,320 cases per 100,000 workers) and Education (2,660 cases per 100,000 workers) all had significantly higher rates than the average for all industries.

#### 作業関連のストレス、うつ又は不安、業種別

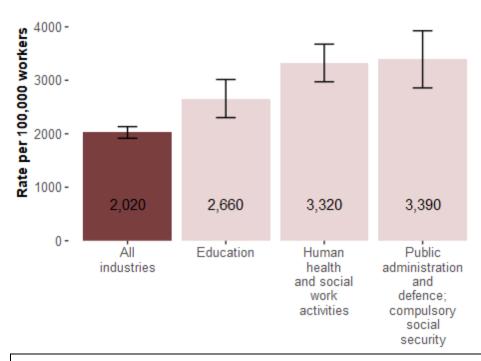
いずれも全産業の平均より大幅に高い。

2021/22 の期間平均で、労働者 10 万人当たり 2,020 件でした。 公務行政及び防衛、法的社会保障(10 万人当たり 3,390 件)、保健衛生及び福 祉活動(10 万人当たり 3,320 件)、教育(10 万人当たり 2,660 件)の大分類は

全産業における作業関連のストレス、うつ又は不安の有病率は、2019/20-

Figure 3: Estimated prevalence rates of self-reported work-related stress, depression or anxiety in Great Britain, for people working in the last 12 months, by industries with higher rates, averaged 2019/20-2021/22

図3:グレートブリテンにおける、過去12カ月間に働いていた人の、自己申告による作業関連のストレス、うつ又は不安の推定有病率、有病率の高い産業別、2019/20-2021/22の平均値



Source: LFS, estimated annual average 2019/20-2021/22 95% confidence intervals are shown on the chart

出典: LFS (労働力調査)、推定年間平均値 2019/20-2021/22、 95%信頼区間はグラフに記載

(資料作成者注:上記の図3中にある「英語原文―日本語仮訳」は、次のとおりです。)

### Rate per 100,000 workers

労働者 10 万人当たりの発生率

All Industries	全産業
Education	教育
Human health and social work activities	保健衛生業及び社会福祉活動
Public administration and defence; compulsory social security	公務行政及び国防、法的社会治安
95% confidence interval	資料作成者の注:95%の信頼性のある期間

Work-related stress, depression or anxiety by occupation	職業別の作業関連のストレス、うつ又は不安
For the three-year period averaged over 2017/18-2019/20, Professional	2017/18-2019/20 の 3 年間平均では、専門職(10 万人当たり 2,260 件)、准専
occupations (2,260 cases per 100,000 workers), Associate professional and	門職及び準技術職(10万人当たり1,880件)が、全職業グループの割合(10
technical occupations (1,880 cases per 100,000 workers) had statistically	万人当たり 1,570 件)に比べ、作業関連のストレス、うつ又は不安の割合が統
significantly higher rates of work-related stress, depression or anxiety	計的に有意に高いことがわかりました。
compared to the rate for all occupational groups (1,570 per 100,000 workers).	

A number of smaller occupational groups, some part of the above bigger groupings, also had statistically higher rates (averaged over 2017/18-2019/20) including:

- Protective service occupations
- Customer service occupations
- Teaching and educational professionals
- Health and social care associate professionals
- Health professionals
- Business, media and public service professionals

These occupations often involve high levels of public contact or interaction and many are also largely within the public sector.

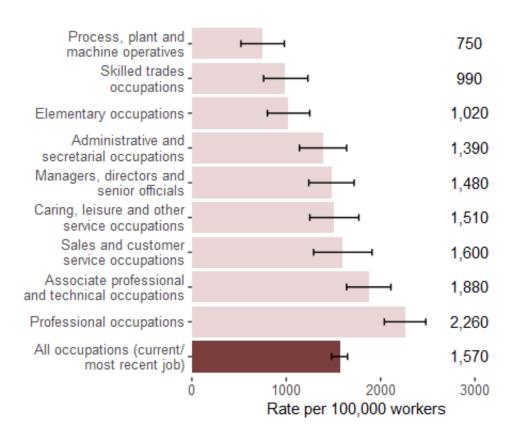
また、上記の大きなグループの一部である多くの小さな職業グループも、以下のように統計的に高い率を示しました(2017/18-2019/20 の平均値)。

- 保護サービスの職業
- 顧客サービス職業
- 教師及び教育専門家
- 医療及び社会福祉関連準専門職
- 医療従事者
- ビジネス、メディア及び公共サービスの専門家

これらの職業は、一般の人々との接触や交流が多く、その多くが公共部門に属しています。

Figure 4: Estimated prevalence rates of self-reported work-related stress, depression or anxiety in Great Britain, for people working in the last 12 months, by occupation, averaged 2017/18-2019/20

図4:グレートブリテンにおける、過去12カ月間に働いていた人の、自己申告による作業関連のストレス、うつ又は不安の職業別の推定有病率、2017/18-2019/20平均



(資料作成者注:上記の図4中にある「英語原文―日本語仮訳」は、次のとおりです。)

Process, plant and machine operatives

プロセス、プラント及び機械操作

Skilled trades occupations	熟練営業職
Elementary occupations -	基本的職業
Administrative and _ secretarial occupations	管理運営及び秘書的職業
Managers, directors and senior officials	管理者、監督者及び上級職員
Caring, leisure and other service occupations	介護、レジャー及びその他のサービス職
Sales and customer service occupations	販売及び顧客サービス職
Associate professional and technical	準専門的及び準技術的職業
Professional occupations -	専門的職業
All occupations (current/ _ most recent job)	全職業平均(現在/直近の仕事)
⊢—— 95% confidence interval	95%の信頼性のある期間
Source: LFS, estimated annual average 2017/18-2019/20	資料出所:労働力調査 (LFS)、推定年間平均 2017/18 から 2019/20 までの年間
	平均の推計
95% confidence intervals are shown on the chart.	95%の信頼性がある区間は、図中に表示されています。
Rate per 100,000 workers	労働者 10 万人当たりの発生率

Work-related stress, depression or anxiety by age and gender	年齢及び性別の作業関連のストレス、うつ又は不安
The most recent data shows that compared to all workers, females overall	最新のデータでは、全労働者と比較して、女性全体では作業関連のストレス、
had statistically significantly higher rates of work-related stress, depression	うつ又は不安の発生率が統計的に有意に高く、男性では有意に低いことが示さ
or anxiety and males significantly lower.	れています。

Compared to all workers: - Males aged 16-24 - Males aged 45-54 - Males
aged 55+ had significantly lower rates of work-related stress, depression or
anxiety.

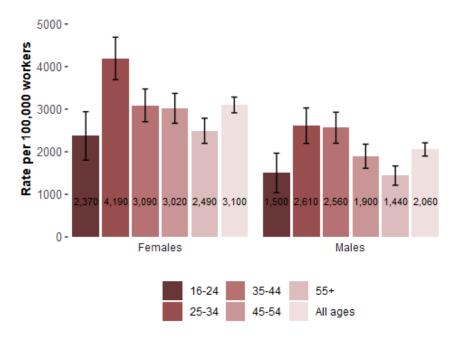
全労働者と比較して、-16-24歳の男性-45-54歳の男性-55歳以上の男性は、作業に関連したストレス、うつ又は不安の割合が有意に低いことがわかりました。

By contrast: - Females aged 25-34 - Females aged 35-44 - Females aged 45-54 had significantly higher rates.

一方、女性では、25-34歳、35-44歳、45-54歳が有意に高い。

Figure 5: Prevalence rate of self-reported work-related stress, depression or anxiety in Great Britain, by age and gender per 100,000 workers, averaged over the period 2019/20-2021/22

図5:グレートブリテンにおける自己申告による作業関連のストレス、うつ又は不安の有病率、労働者10万人当たりの年齢別及び性別、2019/20-2021/22の期間平均値



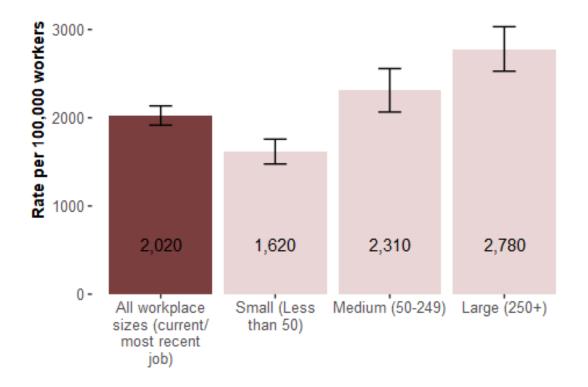
(資料作成者注:上記の図5中にある「英語原文―日本語仮訳」は、次のとおりです。)

■16-24	16-24
<b>■</b> 25-34	25-34
■35-44	35-44
<b>45-54</b>	45-54
55+	55 以上
All ages	全年齢平均
Males	男性
Females	女性
95% confidence interval	95%の信頼性がある区間

Rate per 100,000 workers	労働者 10 万人当たりの発生率
Source: LFS estimated annual average 2019/20-2021/22	資料出所: 労働力調査 (LFS)、推定年間平均 2019/120 から 2021/22 までの年間平均の推計
95% confidence intervals are shown on the chart	95%の信頼性がある区間は、図中に表示されています。

Work-related stress, depression or anxiety and workplace size	作業関連のストレス、うつ又は不安、及び職場の規模
Compared with the rate of all workplaces size, small workplaces had a	全事業所規模での発生率割合と比較すると、小規模事業所では、作業関連のス
statistically significantly lower rate of work-related stress, depression or	トレス、うつ又は不安の発生率が統計的に有意に低いことがわかりました。
anxiety. Medium and large enterprises had statistically significantly higher	中堅及び大企業は、統計的に有意に高い割合でした。
rates.	

Figure 6: Prevalence rates of self-reported work-related stress,	図 6:グレートブリテンにおける自己申告による作業関連のストレ
depression or anxiety in Great Britain, by workplace size per	ス、うつ又は不安の有病率、労働者 10 万人当たりの職場規模別、
100,000 workers, averaged over the period 2019/20-2021/22	2019/20-2021/22 の期間平均値



☐ 95% confidence interval	95%の信頼性がある区間
All workplace sizes (current/ most recent job)	全作業場の規模 (現在/直近の仕事)
Small (less than 50)	小規模(50 人未満)

Medium (50-249)	中規模(50-249人)
Large (250+)	大規模 (250 人以上)
Rate per 100,000 workers	労働者 10 万人当たりの発生率
Source: LFS, estimated annual average 2019/20-2021/22	資料出所:労働力調査 (LFS)、推定年間平均 2019/20 から 2021/22 までの年間
	平均の推計
95% confidence intervals are shown on the chart.	95%の信頼性がある区間は、図中に表示されています。

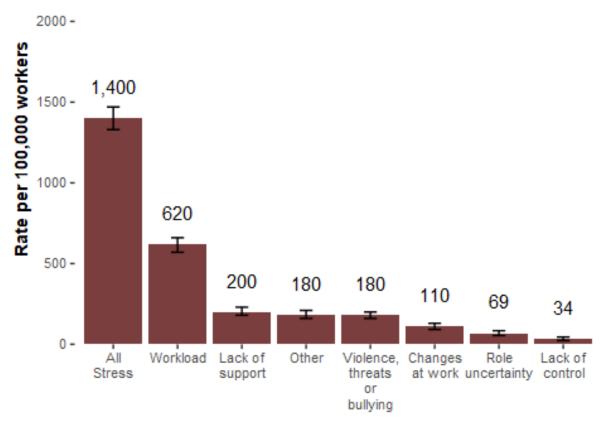
Causes of work-related stress, anxiety or depression	作業関連のストレス、不安又はうつの原因
Of the 914,000 workers suffering from work-related stress, depression or	2021/22 年に作業関連のストレス、うつ又は不安に悩む労働者 914,000 人のう
anxiety in 2021/22 an estimated 452,000 believed it was caused or made	ち、推定 452,000 人がコロナウイルスの大流行(パンデミック)の影響によっ
worse by the effects of the coronavirus pandemic.	て引き起こされたか悪化したと考えているとのことです。
Source: LFS	出典:LFS (労働力調査)
These estimates of the number of workers who suffered work-related stress,	コロナウイルスの大流行の結果、作用に関連したストレス、うつ又は不安に苦
depression or anxiety as a result of the coronavirus pandemic should not be	しんだ労働者の数のこれらの推定値は、作業に関連したストレス、うつ又は不
subtracted from the overall estimate of work-related stress, depression or	安の全体的な推定値から差し引かれるべきではありません。
anxiety. It cannot be assumed that those individuals would not have	コロナウイルスがなければ、これらの人々が作業に関連したストレス、うつ又
otherwise suffered work-related stress, depression or anxiety in the absence	は不安にならなかったと仮定することはできません。
of coronavirus.	
Prior to the coronavirus pandemic the predominant cause of work-related	コロナウイルスの大流行以前、労働力調査(2009/10-2011/12)によると、作業
stress, depression or anxiety from the Labour Force Survey (2009/10-	関連のストレス、うつ又は不安の主な原因は、仕事量、特に厳しい納期、多す
2011/12) was workload, in particular tight deadlines, too much work or too	ぎる仕事、過度のプレッシャー又は責任感でした。
much pressure or responsibility.	

Other factors identified included a lack of managerial support, violence and bullying, organisational changes at work and role uncertainty (lack of clarity about job/uncertain what meant to do).

その他の要因としては、管理職のサポート不足、暴力及びいじめ、職場の組織 的変化及び役割の不確実性(仕事が明確でない/何をすべきかがわからない) が挙げられました。

Figure 7: Estimated prevalence rates of self-reported stress, depression or anxiety in Great Britain, by how caused or made worse by work, averaged 2009/10-2011/12

図 7: 自己申告によるストレス、抑うつ、不安の推定有病率、 2009/10-2011/12 年平均、作業によって引き起こされた、又は悪化さ せられた別



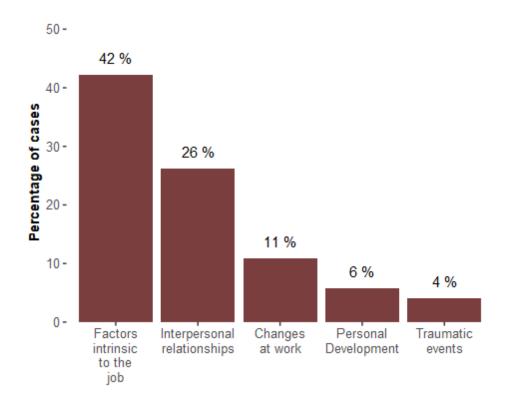
Source: LFS estimated annual average 2009/10-2011/12
出典:労働力調査(LFS)推定年間平均値 2009/10~2011/12
95% confidence intervals are shown on the chart
95%信頼区間はグラフに表示

The general practitioner's network (THOR-GP 2013-2015) identified an analysis of work-related mental ill health cases by precipitating events. They concluded that workload pressures were the predominant factor, in agreement with the LFS, with interpersonal relationships at work and changes at work significant factors also.

一般開業医のネットワーク (THOR-GP。2013-2015) は、作業に関連した精神的不健康の症例について、原因となる出来事別に分析を行いました。彼等は、労働力調査 (LFS) と一致して、作業量のプレッシャーが主な要因であり、職場の対人関係及び職場の変化も重要な要因であると結論付けています。

Figure 8: Percentage of work-related mental ill-health cases reported to THOR-GP according to main precipitating event, three-year aggregate total, 2013-2015 in Great Britain

図 8: THOR-GP に報告された作業関連の精神疾患症例の主な原因事象による割合、3年間の集計、2013-2015年、グレートブリテン



Source: THOR(GP), data 2013-2015

(資料作成者注:上記の図8中にある「英語原文―日本語仮訳」は、次のとおりです。)

Percentage of cases	症例の割合(%)

Factors intrinsic to the job	仕事に特有の因子
Interpersonal relationships	個人的関係
Changes at work	作業の変更
Personal development	個人的発達
Traumatic events	衝撃的な出来事
Source: THOR(GP), data 2013-2015	資料出所: 一般開業医のネットワーク、2013-2015 年のデータ

#### Annex 1: Sources and definitions

The Labour Force Survey (LFS): The LFS is a national survey run by the Office for National Statistics of currently around 36,000 households each quarter. HSE commissions annual questions in the LFS to gain a view of self-reported work-related illness and workplace injury based on individuals' perceptions. The analysis and interpretation of these data are the sole responsibility of HSE.

- Self-reported work-related illness: People who have conditions which they think have been caused or made worse by their current or past work, as estimated from the LFS. Estimated total cases include long-standing as well as new cases. New cases consist of those who first became aware of their illness in the last 12 months.
- It is important to note that an estimate of work-related stress, depression or anxiety for the latest year in the absence of the coronavirus pandemic cannot be derived from the estimates presented in this document. This is due to the fact that it cannot be assumed that any indivudal case attributed to the coronavirus pandemic would not have developed anyway in the given year.

Reports of ill health by general practitioners (GPs) (THOR GP): THOR GP is a surveillance scheme in which general practitioners (GPs) are asked to report new cases of work-related ill health. It was initiated in June 2005. Participating GPs report anonymised information about newly diagnosed cases to the Centre for Occupational and Environmental Health (COEH),

#### 附属書1:出典及び定義

労働力調査 (LFS):LFS は、国家統計局が四半期ごとに約 36,000 世帯を対象 に実施している全国規模の調査です。

HSE は、LFS に毎年質問を行い、個人の認識に基づいて、自己申告による作業関連の疾病及び労働傷害の状況を把握しています。

これらのデータの分析及び解釈は、HSE が単独で責任を負うものです。

・自己申告制の作業関連疾患:LFS から推定される、現在又は過去の作業が原因で、又は悪化させたと思われる状態にある人。

推定された総症例には、長期にわたる症例及び新規症例が含まれる。

新規症例とは、過去12ヶ月間に初めて自分の病気を自覚した人のことです。

・注意すべきは、コロナウイルスの大流行がなかった場合の直近1年間の作業に関連したストレス、うつ又は不安の推定値は、本書で示した推定値から導き出すことができないことです。

これは、コロナウイルスの大流行に起因する個人的なケースが、その年に発症しなかったと仮定することができないためです。

一般開業医 (GP) による体調不良の報告 (THOR GP):THOR GPは、一般開業医 (GP) に作業関連の新たな健康障害の事例を報告してもらうサーベイランス制度です。それは、2005年6月に開始されました。参加一般開業医 (GP) は、新たに診断された症例について匿名化された情報をマンチェスター大学職業環境衛生センター (COEH) に報告します。HSEの資金援助は2016年に終了したため、HSEに提供されるデータの最終年は2015年です。

University of Manchester. HSE funding ended in 2016 so the last year of data available to HSE is 2015.

Rate per 100,000: The number of annual workplace injuries or cases of work-related ill health per 100,000 employees or workers.

95% confidence interval: The range of values within which we are 95% confident contains the true value, in the absence of bias. This reflects the potential error that results from surveying a sample rather than the entire population.

Statistical significance: A difference between two sample estimates is described as 'statistically significant' if there is a less than 5% chance that it is due to sampling error alone.

For more information, see  $\underline{www.hse.gov.uk/statistics/sources.pdf}$ 

Potential impact of COVID-19 on HSE's main statistical data sources in 2021/22 See www.hse.gov.uk/statistics/coronavirus-pandemic-impact.htm

10 万人当たりの割合:被雇用者又は労働者 10 万人当たりの年間労働災害件数 又は労働関連疾病の症例数

95%信頼区間:偏りがない場合に、真の値を含んでいると 95%確信できる値の 範囲。これは、母集団全体ではなく、サンプルを調査した結果生じる潜在的な 誤差を反映しています。

統計的有意性:2つのサンプル推定値の差が、サンプリングエラーのみによるものである可能性が5%未満である場合、「統計的に有意」と表現されます。 詳細については、www.hse.gov.uk/statistics/sources.pdf を参照。

2021/22 年における HSE の主な統計データソースに対する COVID-19 の潜在 的影響 www.hse.gov.uk/statistics/coronavirus-pandemic-impact.htm を参 照。

Annex 2: Links to detailed tables	附属書2:詳細表へのリンク
The data in this report can be found in the following tables:	本レポートのデータは、以下の表でご確認いただけます。
	(資料作成者注:以下左欄の英語原文の日本語仮訳は、標題を除いて省略しまし
	た。)
LFS tables	労働力調査の表

,	
Type of illness (LFSILLTYP):	疾病の種類(LFSILLTYP):
www.hse.gov.uk/statistics/lfs/lfsilltyp.xlsx	
Age and gender (LFSILLAGE):	年齢別及び性別(LFSILLAGE):
	一面P. M. X. O T. L. M. (LIF OTBLEAGE).
www.hse.gov.uk/statistics/lfs/lfsillage.xlsx	
Industry (LFSILLIND): <a href="https://www.hse.gov.uk/statistics/lfs/lfsillind.xlsx">www.hse.gov.uk/statistics/lfs/lfsillind.xlsx</a>	産業別(LFSILLIND):
Occupation (LFSILLOCC):	職業別(LFSILLOCC):
www.hse.gov.uk/statistics/lfs/lfsillocc.xlsx	
Workplace size (LFSILLSIZ):	職場の規模(LFSILLSIZ):
www.hse.gov.uk/statistics/lfs/lfsillsiz.xlsx	
How caused or made worse by work (LFSILLHOW):	作業によって発症したか、又は悪化したか(LFSILLHOW):
-	THE SECTION OF THE SE
www.hse.gov.uk/statistics/lfs/lfsillhow.xlsx	
THOR GP tables THORGP14-Mental ill-health by precipitating	一般開業医(GP)による体調不良の報告(THOR GP)の表 THORGP14-出来
event: www.hse.gov.uk/statistics/tables/thorgp14.xlsx	事に起因する精神上の不健康:
More data tables can be found at:	
www.hse.gov.uk/Statistics/tables/index.htm	さらなるデータ表は、次で見出せます。
www.nse.gov.uk/Statistics/tables/muex.ntm	C りょる! / Xは、外し九川ヒより。

#### **National Statistics**

National Statistics status means that statistics meet the highest standards of trustworthiness, quality and public value. They are produced in compliance with the Code of Practice for Statistics and awarded National Statistics status following assessment and compliance checks by the Office for Statistics Regulation (OSR). The last compliance check of these statistics was in 2013.

It is Health and Safety Executive's responsibility to maintain compliance with the standards expected by National Statistics. If we become concerned about whether these statistics are still meeting the appropriate standards, we will discuss any concerns with the OSR promptly. National Statistics status can be removed at any point when the highest standards are not maintained and reinstated when standards are restored. Details of OSR reviews undertaken on these statistics, quality improvements, and other information noting revisions, interpretation, user consultation and use of these statistics is available from <a href="https://www.hse.gov.uk/statistics/about.htm">www.hse.gov.uk/statistics/about.htm</a>

An account of how the figures are used for statistical purposes can be found at www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm.

For information regarding the quality guidelines used for statistics within HSE see <a href="https://www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm">www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm</a>

A revisions policy and log can be seen at www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/ Additional data tables can be found at <a href="https://www.hse.gov.uk/statistics/tables/">www.hse.gov.uk/statistics/tables/</a>.

#### 国家統計

国家統計の地位とは、統計が信頼性、品質、及び公共的価値に関する最高基準を満たしていることを意味します。統計に関する実施基準に準拠して作成され、統計局 (Office for Statistics Regulation: OSR) による評価及び準拠性チェックを経て、国家統計の地位が付与されます。これらの統計の最後のコンプライアンスチェックは2013年に行われました。

国家統計に期待される基準への準拠を維持することは、安全衛生庁の責任です。 これらの統計が依然として適切な基準を満たしているかどうかについて懸念が 生じた場合、統計局と速やかに協議します。

国家統計の地位は、最高水準が維持されていない場合、いつでも解任することができ、水準が回復した場合には復活させることができます。

これらの統計について行われた統計局の調査の詳細、品質改善、および改訂、解 釈、利用者からの相談、これらの統計の使用に関するその他の情報については、 www.hse.gov.uk/statistics/about.htm から入手可能です。

数値が統計目的でどのように使用されているかについては、www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm。

HSE の統計に使用されている品質ガイドラインに関する情報は、www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm を参照。

修正方針及び修正履歴は、<u>www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/</u> でご覧いただけます。その他のデータ表は、<u>www.hse.gov.uk/statistics/tables/</u> でご覧

	いただけます。
General enquiries: <u>lauren.vango@hse.gov.uk</u>	
	一般的な問い合わせ先: <u>lauren.vango@hse.gov.uk</u>
Journalists/media enquiries only: <a href="https://www.hse.gov.uk/contact/contact.htm">www.hse.gov.uk/contact/contact.htm</a>	
	ジャーナリスト/メディア関係者のみ: <u>www.hse.gov.uk/contact/contact.htm</u>

Further information	さらなる情報
For information about health and safety, or to report inconsistencies or	安全衛生に関する情報又はこのガイダンスの矛盾若しくは不正確な点を報告す
inaccuracies in this guidance, visit the HSE website.	る場合は、HSE のウェブサイトをご覧ください。
You can order HSE priced publications at the HSE books website.	HSE の書籍は、HSE books のウェブサイトから注文することができます。
HSE priced publications are also available from bookshops.	また、HSE の価格設定された出版物は書店でも購入できます。
This publication is available on the HSE website.	本書は、HSE のウェブサイトから入手できます。
© Crown copyright If you wish to reuse this information visit the HSE website for details.	© Crown copyright この情報を再利用する場合は、HSE のウェブサイトを参照してください。
Published by the Health and Safety Executive	発行:HSE(Health and Safety Executive)